

キングダム展

2023. 3. 8

「キングダム展宮城」の情報を家人がつかんだ。これは行かねばなるまいと調べてみた。当然のごとく仙台かとおもいきや多賀城だった。何故に多賀城なのか。東北歴史博物館という施設があるらしい。そこが会場だった。

東北歴史博物館は、旧石器時代から近現代まで、東北地方全体を視野に入れた歴史系博物館である。宮城県が運営している。外観は近未来的である。1階の総合展示室では、多賀城の歴史をはじめ宮城県や東北の歴史や文化を学ぶことができる。特別展示室やテーマ展示室では、様々な展示が催されている。今回のキングダム展は特別展示室だった。

また、3階には、こども歴史館や図書情報室などがある。こども歴史館では、本物の土器に触ったり当時の民族衣装を着たりといったワークテーブルを実施している。敷地内には、旧今野家住宅というものもある。自分の体で歴史を学ぶ体験型学習の施設にもなっている。ショップやレストランもある。古代米をメインとしたメニューが並んでいる。

なぜ多賀城なのか。それは多賀城だからである。多賀城には、陸奥国府と鎮守府が置かれた。約900メートル四方という広大な城内の中央には、重要な政務や儀式を行う政庁があった。発掘調査の成果をもとに環境整備が行われており、平城宮跡（奈良県）、大宰府跡（福岡県）とともに日本三大史跡に数えられている。11世紀中頃までの東北地方の政治・軍事・文化の中心であったようである。

キングダム展だが、第1話「無名の少年」から第438話「雄飛の刻（とき）」までのストーリーで展示が構成されている。作者全面監修のもと、主人公の物語を再構築してある。400点以上の直筆生原画や本展のために描きおろされたイラストを約20点展示し、感動の名場面を生原稿と巨大グラフィックで再構成してお届けしようという、これまでにない規模の原画展である。

話がなかなか進まないため、ストーリーを忘れてしまい、何度か復習を試みてきた。今回も復習の機会となった。展示の最終コーナーには、登場人物の名前と顔があった。何せ6つの国同士が戦っている。それぞれの国には、将軍だ軍師だ隊長だとおびただしい数の人物がいる。もはや味方か敵かもわからなくなっている。

今回、原画をまじまじと見て考えた。「これは進むわけがない」なかなか話が進まないのもやむを得ないと納得した。連載開始から15周年にあたる2021年に、このキングダム展は始まった。全国を巡回中である。宮城の前は大阪だった。この後は金沢になるらしい。

家人と日曜日に行った。出発の朝に知ったことがある。「土曜日は“山の民サタデー”」とある。ご来場された方には特典グッズ「山の民のお面」を会場にてお渡ししますとある。欲しいような欲しくないような、今でもやっぱり土曜日に行けばよかったかと、多少の後悔の念を打ち消すことはできない。